



市川市立大洲小学校

学校だより
1月

発行責任者 校長 田中 敏則

き ず な



よくまなび よくあそび

～ 人生を拓く力の育成 ～

ま な び いっぱい
やさしさ いっぱい
げ ん き いっぱい

一年の計は元旦にあり

年の初めにぴったりのことわざの一つに、「一年の計は元旦にあり」があります。このことわざは、中国の古い書物の言葉に由来するそうです。

その書物には、「一日の計は朝にあり。一年の計は元旦（正月・春）にあり。一生の計は勤にあり。一家の計は身にあり。」とあるそうで、これを訳すと「一日は朝の気持ちのあり方で決まり、一年は年のはじめの決意で決まる。人生はまじめに働くことで決まり、一家の将来は身の振り方（生き方）で決まる」となるようです。

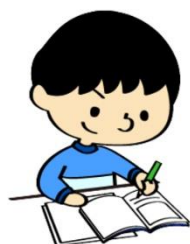
人は誰でも一年のはじまりである節目を大切に、「今年こそ！」と気持ちを新たにします。年の初めに、頑張りたいことやチャレンジしたいことなどを考え、新しい気持ちで勉強や運動に取り組むことは「新しい自分」へと脱皮する好機です。

しかし、三日坊主という言葉もあります。掲げた目標や計画が三日坊主にならないようにするには3つのコツがあります。1つ目は、『期間をはっきりさせておくこと』が重要です。1年間に長いようなら、3ヶ月でも1ヶ月でもかまいません。すると、目標に向かう行動がより具体的になり、達成しようという気持ちが強くなります。2つ目は、「漢字ドリルを一日1ページする」とか「月に1冊以上読書をする」、「縄跳びの二重跳びを連続10回以上跳べるように毎日練習する」のような『具体的な目標設定』が大切です。

そして3つ目ですが、子どもたちが目標をもち続け、達成していくためには、『周りの人々からの支援』が欠かせません。子どもの小さな努力や成功体験を、タイミングよく評価し、励ましてあげることで、子どもたちの自信を芽生えさせることができます。

もちろん、私たち教職員も、子どもたちが目標を達成し、楽しく充実した学校生活が送れるよう、寄り添い、励まし、支援をしてまいります。そして、何よりも、お母さんお父さんにたくさんほめてほしいと思います。

特に、努力や我慢強さ、心構えなどを褒めることは、それらが重要であるという考えが強まり、困難な課題にぶつかっても簡単にはあきらめなくなる心が育まれるそうです。



例えば、宿題を毎日すること。これは当たり前のことかもしれませんが、しかし、大人でも、忙しいスケジュールの中、遅れずにしっかりと実行することは、とても大変なことです。小学生の子どもも忙しい時はあるでしょうし、クラスや友だちとのことで、宿題どころではない時もあるかもしれません。そのような中でも、自分の立てた計画を実行できたら、本当に凄いことです。「ほめすぎじゃないかしら？」というくらいほめてあげてほしいと思います。

励ますことやほめることに心を配ることは、私たち大人の今年の目標の一つになるのかもしれませんが。それでは、本年もよろしくお願いいたします。

学校経営の方針について（３）

１２月に学校関係者評価（保護者アンケート）を行いました。いただいた評価やご意見を今年度の振り返りの参考にさせていただき、「令和４年度 学校経営方針」策定の準備を進めさせていただきます。（アンケートの結果は２月号に掲載させていただきます）



<学びの環境をととのえる>

○ きれいな学校にします

以前、ある中学校を訪れたときに、美化委員会のポスターが掲示されていました。そこには大きく「古いと汚いは違う！」の標語が。なるほどと感心しました。

大洲小も開校して４３年。校舎もだいぶ古いのですが、おかげさまで、教室や廊下は掃除が行き届き、地域ボランティアさんの協力もあり花壇なども手入れがされています。

ゴミが落ちていても気がつかない子は、人の心の痛みがわかるでしょうか。公共物を乱暴に扱う子は、友だちに優しく接することができるでしょうか。掃除の様子を見れば、学校が荒れているかどうか、子どもが落ち着いて生活しているかどうか分かります。

ありがたいことに、本校の子どもたちは一生懸命に掃除に取り組んでいます。身の回りの整理整頓もできています。また、物もあまり壊れません。とても素晴らしいことだと思います。



○ ICT 教育をすすめます

GIGA スクール構想が進められ、高速大容量の通信ネットワークが整備されました。今年度中には１～３年生の児童にもタブレットが用意されます。そのため、タブレットを活用した授業の研究・研修は、当面の課題となっています。



今までの授業に、ＩＣＴ機器を活用することで、「個別最適な学び」や「協働的な学び」がより効果的なものになることが期待されます。そして、主体的・対話的で深い学びとなり、子どもたちの可能性を引き出すことができるようになると思います。

そこで、今までの授業方法をベースに、どのような場面で、どのような機能をどのように使うと子どもたちの学びに効果があるのか、校内研修を重ねます。

『Ｉ（今までの学びに）Ｃ（ちょっとずつ）Ｔ（取り入れる）』がテーマです。

○ 読書教育を進めます

子どもは読書を通じて、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めるとともに、想像力を豊かにしていきます。また、読書活動は子どもの生涯にわたる学習活動の基礎になるとされ、「万学の基礎」と言われています。

読書をあまりしない中学生や高校生の多くは、幼児期や小学生の時期に読み聞かせや読書の経験が少ないとの調査結果もあります。そのことから、小学校時代に読書に勤しむことはとても大切なことです。生涯の財産になるよう、多くの「良書」に触れさせたいと思います。



図書委員会の活動や、図書ボランティアの協力をいただきながら、読書を楽しむことができる環境を整えたいと考えています。